



“2021年12月 第7回観光交流ネットワークミーティングの様子”

2年目を終えたエコモビリティタウン推進事業

平成30年度より毎年2回「観光交流ネットワークミーティング」を開催しています。本ミーティングは、黒松内町における観光交流実践者の情報交換の場をつくり、各事業者間のネットワークを強化することが目的となっています。

今年度、12月に開催したミーティングの中で、観光協会が主体となり実施している「エコモビリティタウン推進事業」の取り組みについて事業報告をしました。この事業は、徒歩・自転車・カヌー等を活用して、太平洋と日本海が接近する黒松内低地帯を人力で周遊観光する観光まちづくり事業で、北海道観光振興機構の支援を受けています。

黒松内町は、開拓時より黒松内山道が開削され、交通の要所として栄えた街です。また、まちづくりの一環で北限のブナ林歩きやフットパスコースを整備したカントリーウォークの取り組みを積極的に行ってきました。そこで、フットパスコース等が整備されていない舗装道は自転車を活用し移動、朱太川の下流域ではカヌーを漕いで周遊すれば、移動手段を楽しみながら、黒松内低地帯の特徴をより体感できるのではないかとこの着想で取り組みが誕生しました。

活動も2年目が終了し、課題も見えてきました。その一つが、地域住民への認知度の向上です。観光交流ネットワークのメンバーや休憩ポイントとしてご協力をいただいている店舗、宿泊施設の方々には、活動を理解していただいているかと思えます。しかし、一般住民の方々には、まだまだ取り組みが浸透していないという現実があります。来年度は、地域の皆様に本事業をよりPRしていけるよう創意工夫を重ねていきたいと考えています。

※この事業は、令和2年度及び3年度の「地域の魅力を活かした観光地づくり事業（公益社団法人北海道観光振興機構）」の支援を受けています。

(事務局長・本間)

B2

ニュースレター

2022/3/31

～次回の観光協会主催イベント～
黒松内岳山開き

Beech Couple Vol.4

※Beechは英語でブナ

今回はNPO法人ひまわりの渡部さん夫妻を取材しました。

ページ2

じり通信 No.23 文：山本竜也

この冬、黒松内町は観測史上1位の記録的な積雪となった。その観測、とはいったいいつから行われているのか。そして現在の観測基準以前の記録を読み解いていくと、黒松内の大雪の記録があった。

ページ2

フットパスクラブ通信 Vol.12

3月12日に行われたフットパスイベント「中央分水嶺を歩く～第4弾～」のレポートです。中央分水嶺シリーズも最終章。日本一の秘境駅「小幌駅」にも立ち寄りしました。

ページ3

くろまかない飯 レシピ：小間旅館

第4回目は小間旅館さんに「うどんのあんかけ」のレシピを教えてもらいました。冷蔵庫の中にある具材で作ってみてください。

ページ3

<<協会主催・協力イベント>>

黒松内岳山開き
5月29日(日) 8:30～

毎年恒例!黒松内岳の新緑登山会。町内外から多くのお申込みがある人気の山開きイベントです。

開催一ヶ月前より申し込み受け付け予定です。



Beech Couple Vol.4

町の郵便局前にある「NPO 法人ひまわり」の管理者・渡部 尚幸さんご夫妻にお話を伺いました。



尚幸さん (41歳) 佳穂里さん (45歳)
伊達市出身 小樽市出身・教諭
長女: 結生ちゃん 長男: 乃野くん

Q. 黒松内に来たのはいつ? 理由は?

尚) 平成 18 年～19 年頃。当時ぶなの森自然学校に勤めていた幼馴染みの同級生を訪ね、遊びにきたのがきっかけです。

佳) 1 回目は、平成 16 年に北海道余市養護学校しりべし学園分校に赴任してきたことで、2 回目は、平成 28 年に出産のため引っ越してきたことです。

Q. 黒松内での楽しみは?

春は山菜採り、夏は川遊び、秋は山葡萄やコクワ摘み、冬は雪遊び... とにかく一年中、子ども達と一緒に野外で遊べること! 焚き火、外での焼肉も最高!

Q. 町内で好きなスポットは?

自宅(子育て住宅)ベランダから見える景色、白井川玉置さん家のお馬さん、白井川コミュニティセンターの裏庭、白井川小公園、小泉牧場の裏の空き地などなど。

Q. 町内の好きな食べ物は?

家族でよく行く『この花』のお蕎麦 & カフェ YUPI のネパールカレーとクラフトコーラ。

Q. 町のいいところ

自然と人! 人と人をつないでくれた自然の大きさ。そして、子育てをサポートしてくれる地域の方々の人間性が魅力です。

Q. 町の難点をあげるとすれば?

難点は、小児科がないこと。具合の悪い小さい子どもを連れて、遠い小児科まで行かなくてはいけないことが大変です。

Q. これからやっていきたいこと

病気や障がいを抱えていたり、子育てしていたり、サポートが必要な方々が安心して暮らせる地域づくり。そして、黒松内ならではの楽しい子育てをとことんやりたい!

【編集から一言】今回取材をきっかけに初めてお話しさせていただいた渡部さんご夫妻。

「白井川」と「子ども」をととても大切にされる、あったかファミリーでした♪(事務局・古本)

じり通信 No.23 「黒松内の最積雪深」 文: 山本竜也

2022年2月22日、黒松内アメダス観測所で、214センチの積雪を観測した。観測史上1位の値としてニュースになった。それを耳にした黒松内町民から気象庁職員の私に質問が来た。「観測史上1位といっても、いつからの統計なんですか?」鋭い質問である。

気象庁ホームページで「過去のデータ検索」のページを見ると、黒松内の積雪は1981年10月の統計開始となっている。つまり、今年は、ここ40年のあいだで最も雪が積もったということである。だが、もっと雪が降った年はなかったのか? じつは、現在の統計は、積雪を自動観測する積雪深計が整備されてからのものだ。それ以前は、黒松内村役場や黒松内小学校に観測を委託していた。そのデータはデジタル化されていないが、紙の原簿で气象台に保存されている。

調べてみたところ、1937年からの積雪のデータが見つかった。最深積雪の記録も判明した。1945年3月18日に観測した300センチである。当時の天気図を見ると、積丹半島付近の低気圧によって局地的に雪が降り続いたようで、16日から18日にかけて一気に104センチも積もっている。17日の記事欄に「本線不通」とあり、函館本線が大雪のため運休したことが分かる。函館本線は18日の午後には開通しているが、『黒松内町史(下)』によると、寿都鉄道は3か月にわたって不通となったという。

委託観測時代の2位の記録は1957年3月9日の262センチ、3位の記録は1942年1月31日の230センチである。観測場所も方法も異なることを承知のうえで1937年からの記録を通算すると、今年の214センチは4位の記録となる。

黒松内国民学校による1945年3月の気象観測原簿。18日に積雪300センチと記録されている。

フットパスクラブ通信 Vol.12

3月12日中央分水嶺を歩く～第4弾～レポート

3月12日にフットパスイベント「中央分水嶺を歩く第4弾」を行いました。冬のフットパスイベントの恒例となりました分水嶺ウォークですが、今回はさらに日本一の秘境駅である小幌駅を訪れ、通過する列車を眺めて楽しむ事もイベントに盛り込みました。

参加者は総勢28名で一般参加者は18名、うち15名が町外の参加者。もちろん、フットパスクラブ会員も参加しました。スノーシューを履き約3kmのコースを9時半から13時まで休憩を挟み約3時間半かけてゆっくりと歩きました。

当日はやや曇りの天気でしたが風は穏やかでウォーキングに適した1日でした。中央分水嶺から眺める太平洋の様子は、冬ならではの澄み切った空気も相まってとても良い景色でした。休憩ポイントの小幌駅では皆さんで木村家菓子舗さんのどら焼きを食べて疲れを癒し、特急列車が通過する様子を撮影されていました。

また、ウォーキングが終了し解散の際には「黒松内サイダー」をお渡しするサプライズ企画を盛り込み、黒松内の新たな特産品を楽しんでいただきました。(事務局・岡本)



くろまかない飯

～うどんのあんかけ～

黒松内の料理人にまかないレシピを教えてください！
第4回目は小間旅館さん。
うどんのあんかけを教えてくださいました。

【材料(2人前)】

- ・豚バラ肉 80g
- ・白菜 250g
- ・小松菜 40g
※チンゲン菜でもよい
- ・にんじん 50g
- ・たけのこ(水煮) 80g
- ・椎茸 1枚
- ・ボイルむきえび 4個
- ・うずら茹で卵 4個
- ★中華スープ 350ml
- ★しょうゆ 小さじ4
- ★オイスターソース 小さじ2
- ★砂糖 小さじ1
- ★こしょう 少々
- ・うどん 2玉
- ・片栗粉 大さじ2
- ・ごま油 小さじ4
- ・サラダ油 適量

作り方

- ①豚バラ肉、小松菜、しいたけは食べやすい大きさに切る。白菜はざく切り、にんじんとたけのこはたんざく切りにする。
- ②にんじん、たけのこは8秒程度油通しする。豚バラ肉は下茹でする。
- ③フライパンにサラダ油(適量)をひき、白菜、小松菜、下茹でした豚肉を軽く炒める。
- ④★の調味料を合わせてあんの素をつくる。
- ⑤炒めた具材とボイルしたむきえび、うずらの茹で卵、あんの素をあわせたものに水溶き片栗粉を入れあんを作る。とろみがついたらごま油を入れ、あんは完成。
- ⑥うどん2玉を温め、あんをかけて完成。



小間さんのワンポイントアドバイス：まかないなので材料にとらわれず、冷蔵庫に残ってる材料でOKです。

「黒松内サイダー」販売開始！

令和4年1月8日から道の駅くろまつないにて新たな味覚、ご当地サイダー「カシスサイダー」「ゆずサイダー」の2種類の販売を開始いたしました。

「カシスサイダー」のカシスは、町内のファーム関根さんが生産されているものを使用しております。道内でも希少なカシス生産農家で栽培には農薬や化学肥料を一切使わないこだわりの方法で生産されています。

「ゆずサイダー」の柚子は黒松内町と姉妹都市関係にある愛媛県西予市にある城川ファクトリーさんから取り寄せたものを使用していますが、柚子は何と有機 JAS 認証を取得しており、希少性が高く且つ高品質な柚子となります。

サイダーに使われる水は、皆さんご存じの「黒松内銘水」の水を使用しており、サイダーの製造は「コアップガラナ」でお馴染みの(株)小原さんに依頼しました。

このように、果実の生産から品質、産地にこだわった2種類のご当地サイダーは、どちらも甘すぎず、果汁の風味や後味をしっかりと残したものに仕上がっています。現在は、道の駅の他に町内の商店で気軽にご購入が可能となっています。値段は1本350円(税込み)と少々値は張りますが、生産者のこだわり抜いた手間と品質の高さを考えると納得の価格かと思えます。是非一度お試しください！(事務局・岡本)



ついに PR 動画が完成しました！ <https://youtu.be/JmiECQLVWP>

おはようございます、東京のテレビ業界で25年働いていたディレクターの古本です。

今回制作したVTRは来る2023年、北海道で開催されるアドベンチャー・トラベル・ワールド・サミットに参加する外国人やコロナ禍が明けた後のインバウンドを意識したものです。ですので、英語がベースとなっておりますことをご了承ください。

さて、実際にVTRが完成するまでにどのような経緯があったかについて説明します。私が黒松内町に移住したのが4月。まだ町のことがよく分からないまま、3ヵ月後(7月)にVTRの全体構成を作成し、台本を書き上げました。自信がなかったのでブナセンターの皆さんに台本をチェックしていただいたところ、当然、ダメ出しを何度もいただくことに。。。何度も書き直しやっとOKが出て翌月(8月)に撮影開始。撮影現場ではチョコちゃん話す英語が分からず、苦戦しながら撮影すること4回。その際、ドローンでの空撮や、鮎が水中で泳ぐ姿を撮影していただいた伊藤さん、1カットのためにわざわざSUPや車を出してくれた自然学校の方々、クマゲラの貴重な映像などを貸してくれた齋藤学芸員、車庫焼きの撮影をしたら豪華なBBQをしてくれた池田さん、生きた鮎を無償で譲ってくれた佐々木暁さん、ただ「ブラックウッドベッカー」と言うだけの演技を何回もやっていただいた辻野夫妻、クマゲラ帽子を貸してくれた大谷さん、そして豆腐の三浦さんと蕎麦の阿部さんにも勿論多大なるご協力を頂きました。あ、チョコちゃんにはナレーションも担当していただきました。本当にありがとうございました。

皆様のおかげで10月から編集作業に入ることができ、3時間越えの収録データを全てチェックし、何万曲の中からシーンに合ったBGMと効果音を選び、見やすさを心がけ0コマ何秒単位の調整を繰り返し、一度は完成するも、やはり日本人の方にも内容を理解してほしいと欲が出て、日本語の字幕をひとつひとつ入れ込み2月にやっと完成しました。結局、観光PRのVTRとしては長めの13分33秒の作品に。とはいえこれでも黒松内の魅力は入りきっていないと思います。ですので、令和4年度もお伝えしきれなかった“魅力的な黒松内”をVTR制作する予定です。もし、協力要請がありました際にはご協力の程宜しくお願い致します(事務局・古本)

チャンネル登録
グッドボタンも
お願いします！



観光協会 HP にて「B2」バックナンバーがご覧になれます。www.bunatatourism.com

印刷版をご希望の方は観光協会までご連絡下さい。

発行人：一社) 黒松内町観光協会 発行日：2022年3月31日 次回発行予定は6月末

TEL：0136-72-3597 FAX:0136-75-7070 MAIL：bunatatourism@gmail.com